

ボランティアを楽しむ情報誌

2016 spring
Vol.152

ボランティア活動センターこふんじ

ボランティア クラブ

Volunteer Club

www.ko-shakyo.or.jp/vc/

- ②③ ポラ活！インタビュー
- ④⑤ プレイステーション紹介
- ⑥ 田原総一郎と国分寺の未来を語るⅡ レポーターが行ってきました！
- ⑦ 登録団体ガイド
- ⑧ 28年度職員紹介



このボランティアクラブは、平成27年度赤い羽根共同募金の配分をうけて発行しています。

無料学習塾 講師ボランティア

右：矢原 健一郎さん(大学3年生) 左：宮崎 大介さん(会社員)

貧困とされている子の中には、経済的な理由で、通いたくても塾に通えない子や行きたくても学校に通えない子、教材すら買ってもらえない子もいます。そんな子ども達のために、無料で開放している学習塾があります。

2014年より国分寺市にて『生活困窮者自立促進モデル事業』がスタートし、国分寺市社会福祉協議会の委託を受け学習支援を行っている、NPO法人『一粒の麦』。小・中・高校生の学習支援に関わっている講師ボランティアの矢原さん、宮崎さん、運営スタッフの宮本さんにお話を伺いました。



-活動を始めたきっかけは-

矢原 大学の家庭教師を斡旋する場所の近くに、ボランティアの募集があったので。

宮崎 もともと、震災のボランティアで福島に行っていたのですが、戻ってきて『自分に何かできることがあるんじゃないか』と思ってネットで探していた時に、東京ボランティア・市民活動センターでこの無料学習塾を募集していたので、どうせやるなら自分の得意分野を活かせるものをやったほうが、貢献度も高いし、自分でも充実度が高くなるんじゃないかと思い参加しました。大学を卒業と同時に、中学・高校の教員免許を取得していて、もともとは教員志望です。しかし、ただ大学を出て世の中のことを知らないまま教員になっても、この勉強は何に役立つのか、『先生は使うかもしれないけど、ほかの人は使わないじゃん』ということに対して答えられるように経験を社会で身につけてから、教員になりたいと思っていたのですが、社会人にならずいぶん経ってしまいました。なので教えることにもともと興味がありました。

-活動の期間は-

矢原 昨年6月からなので、10ヶ月くらいです。

宮崎 2011年7月から始めました。

-矢原さんは、大学卒業後に、教員を目指されているんですか？-

矢原 はい。教員を目指しています。

-この活動以外にボランティアはしていますか？-

矢原 定期的にはないですが、ここと有料の学習塾を掛け持ちしています。

宮崎 私は、先程言ったように震災のボランティアがきっかけで始めて1年くらい、ここと同じような無料学習

塾と掛け持ちしていたのですが、もう一つの塾が諸事情でなくなり、今はここだけです。

-有料の学習塾1本にせず、無料学習塾に関わっているにの何か理由はありますか？-

矢原 理由はけっこうあって、来る層が違うかなと思って…。私が行っている有料学習塾は、裕福な家庭の子が来るわけではなく、低所得な家庭の子が来るわけでもないですが、そんなに月謝が安くもない塾で、お金を持った子しか入れない塾なんです。そこに行けない子達ってどうしているんだろう…。？都立高校の受験でも学校だけじゃ難しいのが現状で、入試制度もお金を持っている人が有利なんです。併願の仕方…。そうじゃない子がどういう状態なのか、まず知りたかったんです。『本当に学習が遅れている子はいるのか？』『そうじゃない子もいるのか？』いろいろやってみて、たくさん気づいたことがありました。

-気づいたこととは？-

矢原 いろんな子がいて、例えば今年度は中学3年生を3人担当させてもらったのですが、2人は偏差値でいけば、60弱で普通に都立高校に受験できるレベルなのですが、もう1人はなぜか数学が不得意で、国語はすごくできていたので、私はLD(学習障害)をまずは疑いました。LDは言語領域はかなり発達していて、数字にすごく弱いのでそう思ったのです。関わって分かったことは、その子は九九の授業の時に学校に行っていなかったということが解ったんです。そういう発想がまったくなく、小学校の時期にすっぽり行かなかったという事態を想定していなかったんです…。九九を教えていくと、みるみるできるようになり、自分の知らないところで、こんな穴があったんだと気付いた時には、衝撃でした。

運営スタッフ宮本さんからメッセージ

現在、無料学習塾のボランティア登録は約40名、実働は30名前後います。子どもが好きで教えることに興味がある方や、近隣の方、30代~40代の主婦の方達にも来てほしいです。

現在、小学生を教えてください方が少なく、募集しています。小学生の目線に寄り添ってくださる方で、始める前に面談をさせていただいてますが、『こうやってほしい』などの要望はなく、経験も必要ないので、出来る時に出来ることをやっていただきたいと思っています。未経験でもやる気のある方なら大歓迎です！

募集の詳細は、ボラセンホームページ&ブログに掲載しています♪

HP <http://www.ko-shakyo.or.jp/vc/>

Blog <http://blog.canpan.info/kokubunjivc/archive/593>

-宮崎さんは、今後教員を目指しているということですが、気付いたことや、得られたことはありますか？-

宮崎 教員に向けての視点からいうと、矢原さんのような視点はとても大切だと思います。同じように、公立の教員志望なんです。いわゆる私立の学校に行ける人たちは、いろんな意味で家庭環境が良かったり、子ども自身に学ぶ意欲があったり、友達関係を築ける環境が整っている人達がほとんどなので、フォローがいらないと思っています。どちらかという私自身が教員として目指している環境は、今、いる子供達の学習環境、生育環境なんです。環境をすぐに良くするのは難しいですが、私と一緒に学んだ子ども達が大人になった時に、あの時に感じた“何か”から、社会を良くしていこうと考えることができ、さらにその子ども達の学ぶ環境がもっと良くなっていくといいなと思うんです。すごく遠い夢物語みたいなものが、一応私のやりたいところになっています。今も、信頼関係をすべて築くこともできないし、場合によっては担当も1回しかないときもあるんですが、お互いにできることをやっていくという環境は、物の考え方や視野が狭い自分にとって人生が少し豊かな方向に得られると感じるんです。『何が？』『一つずつ挙げて』と言われると難しいのですが...

-これから始めたいと思っている方へのメッセージをお願いします。-

宮崎 この塾で長く続けられるのは、基本的にボランティアに対して、こういう授業をしてほしいとか、月に何日来て欲しいなど一切なく、やりたい人がやる内容を選んで、自分の裁量で授業を進められる塾なんです。時間帯も選んで参加するのにハードルがなく、やりやすいです。やってみなきゃ分からない部分もあるけど、まずは、1回やってみればいいと思います。講師同士も、教え方で悩んでいた



すると、メーリングリストなどで相談することもできますし、こういう形態で運営してもらっているのはありがたいです。受験生に関しては、毎週来られるボランティアを中心に担当して調整しています。『ボランティアをやる』という言葉が先行していて、ハードルが高い感じがありますが、自分がそこに参加して、お友達を作るくらいの気持ちで良いと思います。

矢原 教えることに興味がある人には、ボランティアが一番ハードルが低いと思います。アルバイトや派遣になっちゃうと、大卒以上じゃないといけなかったり、資格が必要になってくる。それじゃなくとも活動できるのは、ボランティアだと思います。ただ、子ども達の将来に関わることなので、やると決めたら、80分全力でやってほしいし、ボランティアとして活動されている講師の方は、ハイスpekな方が多くて、化学や物理のプロがいたり、大学教授もいます。分からないことは、専門的視点から聞くこともできるし、隣に座ると話も聞ける。私自身も英語のプロといえるすごい方がいるんですが、その方に聞いたりもします。これから活動したいと思っている方も、気軽に来て、分からなければ隣に聞くくらいの気持ちでやってみるのもいいと思います。

-ありがとうございました。-

子どもが豊かに遊べるまちにしたい

認定 NPO 法人 冒険遊び場の会

『国分寺市プレイステーション』を知っていますか？ここは、全国でも数少ない冒険遊び場。NPO 法人冒険遊び場の会の活動の中心となる場所です。都内でありながら緑に囲まれた住宅街の中にあり、子ども達が木に登ったり土をこねたり、工作などもして自由に遊ぶことができます。プレイリーダーと呼ばれる大人が遊びの手助けや相談などになるので、幼稚園に入る前の小さい子から放課後に立ち寄る小・中学生など、利用する子どもたちの年齢も様々です。

今回は理事の中村祐子さんに、設立に至るまでのお話を伺いました。



写真左：中村祐子さん（写真右は常駐プレイリーダーのゆうじさん）



- 冒険遊び場の会としては何年くらい活動されているのでしょうか？

1982年にプレイステーションが開園したんですね。その時はとある財団法人が運営をする形で始まったのですが、財政難で1998年に撤退が決まりました。それまでプレイステーションを利用してきた人を中心に何とかここを残していきたいということで結集し、立ち上げたのが国分寺冒険遊び場の会です。2000年にはNPO法人冒険遊び場の会となり、行政の協力を得て、プレイステーションは正式に市の施設となりました。会としては現在、遊びの出前「プレイキッズ」、親子で遊ぼう「ブンブンひろば」、親子ひろば「BOUKEN たまご」、などの事業も運営しています。

- 現在会員は何名くらいいるのですか？

各事業を運営するスタッフを含めた正会員が100名くらいです。昔からの支援者や、ここの存続の時に一緒に活動した方が残ってくださったり、新たに賛同して下さる方がいたり。それ以外に120名ほどが、賛助会員として応援してくださっています。

- 利用する方が多いのはどんな時ですか？

まず、毎週火曜と金曜は保育サークルの「ぐるんぱ」さんが利用されています。また、毎週木曜にも自主保育グループの「ハンテントン」さんが利用されていますね。それ以外には、自主保育グループに入っていない方も気軽に来ていただけるようにプレイリーダーが呼びかけて、週に1回木曜日に「親子の日」というのを設定しています。午前中は幼稚園に入る前のお子さんとお母さんが利用されることが多く、お昼頃からは幼稚園児、学校が終わる時間になると小学生が遊びに来たりします。幼児については保護者の付添いが必要ですが、小学生以上であれば一人で来てもらって大丈夫です。14時30分くらいになると小学生が集まってきて、にぎやかに遊んでいます。春や秋などは陽気もいいので、子ども会の集まりなど団体での利用が多いですね。





様々な工作の材料が置いてあり、プレイリーダーに声をかければ好きなものを作ることができる。



工作の材料は市民の方や利用者の方からの寄付も多い。皮は市内にある、ひろべかばん、さんから戴いたもの。イベントでは、ワークシヨップが開かれることも。



雨の日は屋根の下で本やマンガを読んだりもできる。寒い時期にはこたつも大活躍！

- ボランティアとはどのような関わりをもたれていますか？

毎年 10 月にプレイステーションまつりを行うのですが、学芸大のサークルが年々引き継ぎながら手伝ってくれています。単なるお手伝いではなく、実行委員として数カ月前の話し合いから参加してもらっているので繋がりは深いです。おまつりの当日は 20 人くらい来てくれています。あとは東経大や慈恵医大、嘉悦大などの学生さんが実習に来たりもします。実習を終えたあともボランティアに来たいという希望があれば、例えば週に 1 回などご本人が都合のつく時間を決めて来ていただいていますね。

また、世田谷にある NPO 法人日本冒険遊び場づくり協会が全国のプレイパークを広める活動をしていることもあり、そのネットワークでここに来られる方や、ホームページを見て見学に来られる方も多いです。

- ここでボランティアをしてみたい方にメッセージがあればお願いします。

外での活動になるので、寒さや暑さなどはダイレクトに影響してきます。そういった面での合う合わないはあるかもしれませんが、子どもの生き生きとした姿・やりたいことの可能性を感じられる場所です。まずは見学に来ていただいて、この場所を気に入ってもらえるのであれば、ボランティアをしていただいてもきっと良い経験になると思います。興味をお持ちの方はお電話の上、ぜひ一度見学にお越しください。

- 本日はありがとうございました。



国分寺市プレイステーション

■〒185-0023 国分寺市西元町 3-26-35 JR 国分寺駅南口より徒歩 15 分 / JR 西国分寺駅より徒歩 20 分

■開場: 10:00~17:00 (月曜、第 1・3・5 日曜、祝日休) ■TEL: 042-323-8550

<http://www.boukenasobibanokai.or.jp/index.html>



2月21日(日)に開催された、「国分寺の未来を語るⅡ」。昨年は急な腰痛で参加できなかった(涙)のですが、今回は体調万全、張り切って噂の“小室哲哉ホール”に向かいました。今回のプログラムは、市内の中高生が中心となって『自分たちが住む地域の魅力』『自分たちが住みたい地域ってどんなところ？』『どんなものが欲しい？』というテーマで事前に考えてきたものを発表し、それにファシリテーターの枝見太朗さん(一般財団法人 富士福祉事業団 理事長)、ゲストの田原総一郎さん(ジャーナリスト、評論家)がコメントする第一部と、枝見さん、田原さんが第一部を振り返ってお話をする第二部、という二部構成になっていました。いまどきの中高生は、どんな国分寺の未来を考えているのかな？と、幼稚園児の母としての目線も持ちつつ、一市民として、聞いてきた感想をレポートします。

【中高生の問題意識を知ること】

中高生の発表は、学校をまたいで合同文化祭を催す案や、ペンシルロケット発祥の地であることを活かして、国分寺を活性化させるという案、様々な立場の人が利用できる図書館をつくる案、など、幅広いアイデアが出されていました。校内でアンケートを取ったり、調べたりしたものを図やグラフにまとめるなど、今の学生は発表上手です。

『給食』を『楽食』に！という五中の案はユニークで、思わず身を乗り出してしまいました。学外の方も呼んでみんなで給食を食べ、給食について、食について考えるというのは、想像するだけでも楽しそう。大人は折りに触れ、給食を懐かしく思うものですが、現状の不味さを知ってほしいという動機からにせよ(笑)、学生側から大人を給食に招くというのが面白いと思いました。家庭内でさえ孤食が増える中、年齢も立場も異なる人たちが食を介して集う、という機会はどんどん増えていくといいな、と思い、私はこの案に惹かれました。

二中学生が訴えた本多公民館の活性化プランは、いかにティーンズにとって公民館という場が遠く、行きづらい(行く気にならない)場であるか、がよくわかる発表でした。日ごろ子どもの習い事や幼稚園の集まりなどで頻繁に公民館を利用している私は、あまり入りづらさを感じたことがなかったので、若い子達の間では意外でした。

コミュニティスペースとしての新しい形の図書館、国分寺の歴史を知ってもらうための工夫、など、高校生のアイデアも自由な発想と現実性とのバランスをとりながら、苦労して考えた様子が伺えました。

全体を通して、彼らがより明るく、生き生きとした「雰囲気」を求めているのかな、と感じました。「みんなが集える場所なら、公民館があるじゃない」、「図書館なら市内にたくさんあるのじゃ、だめ？」、と言いたくなる一方で、中高生が行きたくなるような空気がそこにはないということなんだ、と気づかされもします。施設を作るかどうかという前に、彼らがどういうものを望み、どういう姿を理想と思っているのかを知ることには大きな意味があるな、と思いました。



【若いこと、若々しいこと】

今回、若々しさが際立っていたのは、誰であろう、田原総一郎さんでした。「国分寺市内のスタンプラリーを企画し、全部回ったら特産のブルーベリーをプレゼントする」というアイデアを聞き、田原さんは「スタンプなら、LINE のスタンプをプレゼントなんかもいいんじゃない」。公民館の問題を聞けば、「大人は使ってるのかな？そもそも、公民館って何をやる場所なんだろう？」と、逆に学生たちに質問を投げたり。

どんな意見にも真摯に耳を傾け、問題を提起するだけではなく、より深く調べ、よくするための方法まで積極的に考えていくという大先輩の姿勢は、学生たちの大きな刺激になったのではないのでしょうか。論理の弱い部分を補強しながら、どんどん思考を進めていく勢いと柔軟さに、私よりも田原さんのほうが余程若々しい、と驚かされました。

若い人たちと、年齢はずっと上だけれど若々しい田原さんとが、意見を交換する。はじめは「なんでその組み合わせなの？」と思ったのですが、聞きに行った人にとっても、双方の“若さ”に心を動かされ、市内の問題を身近なものとして考えるよい機会だったのではないのでしょうか。もちろん、壇上の学生たちにとっては、東京経済大学 ボランティアサークル「Clover」のサポートも得ながら準備をし、大きな舞台上で大勢の前で発表をし、田原さんと枝見さんというプロフェッショナルと意見を交わすという体験は、大変貴重なものだったに違いありません。彼らがこれを機に、積極的に街づくりに関わって、若々しい街の姿を描いていってくれたらいいと思いました。そして私も、学生たちの視点も心に置きながら、改めて国分寺を眺めてみようと思っています。

📖 レポーター：ひなママ

ボランティア活動センターこくぶんじ 登録団体ガイド

Vol.53

プレイセンターピカソ

代表: 畠中 君枝

「プレイセンター」は、ニュージーランド発祥による子育ての場です。国内には「日本プレイセンター協会」があり、全国13ヶ所以上のプレイセンターが誕生しています(2015年現在)。その中でも2002年に日本で初めて誕生したのが「プレイセンターピカソ」です。乳幼児とその家族が安心して遊べる場を親が自主運営しています。広い畳敷きの部屋で、木のおもちゃやお絵書き、粘土や絵本等、子どもが自由に好きな遊びをします。わらべ歌を楽しんだり、公園での外遊びや畑の活動もしています。子どものけんかなど、みんなで大らかに見守って楽しく子育てできます。学習会(子育てについての学び合い)や子どもとの遊びを通して家族と一緒に成長できることを目指しています。

活動場所: 国分寺市北町 1-13-1 野中神明宮共益公会堂
活動日: 毎週 月、金曜日(10:00~12:00、月に一回午後まで)
会費: 1500円/月 入会金 3000円(テキスト代含む)
(親子見学は6回まで無料)

*詳しくは公式HPをご覧ください。

http://www.geocities.jp/pica_beans/



Vol.54

国分寺子どもクラブ

学生代表: 黒澤果奈

こんにちは! 国分寺子どもクラブです! 私たち、国分寺子どもクラブでは、障がいを持った子供たちとそのきょうだい、また自分のペースを大事にしたい小・中学生のための余暇支援活動を行っています★企画や運営は学芸大を始め、津田塾大学や一橋大学や東京経済大学の子どもが大好きな学生たちが、熱意を持って、ボランティアで行っています♪私たちのクラブでは、月2~3回土日に、学生がいろんなアイデアを出し合い、例会と呼ばれる、子供たちが楽しめる企画を考えます。もちろん、子供たちと直に触れ合うのも大学生です。子供たちには担当のお兄さんやお姉さんが一対一でサポートするので、安心して自分のペースで楽しめますよ。ぜひ、気軽に見学に来てくださいね♪

国分寺子どもクラブ 学生代表

津田塾大学国際関係学科2年 黒澤果奈

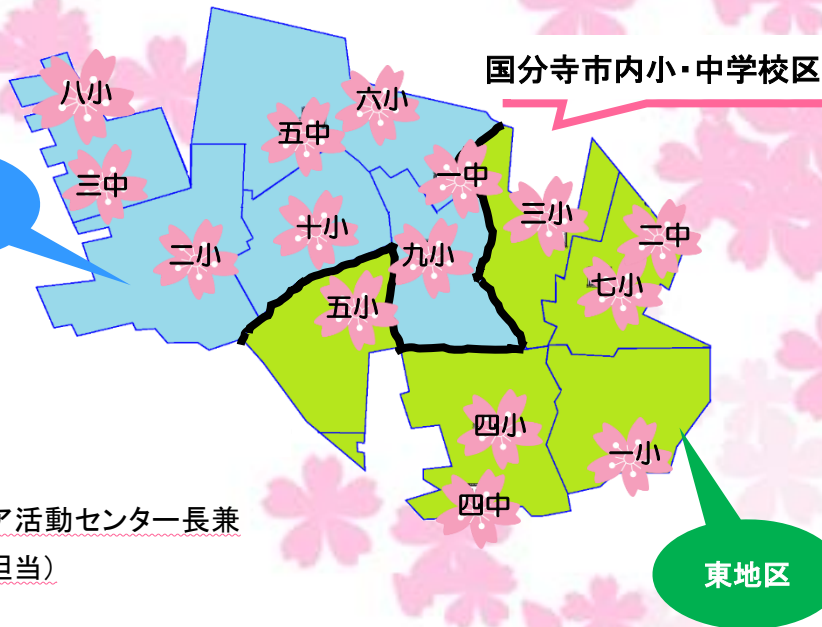
連絡先 kodomo_club1980@yahoo.co.jp 090-2996-4002

(件名に、「国分寺子どもクラブ」と入れてください)



28年度
ボランティア活動センター
こくぶんじ
職員紹介

4月1日付で、地域福祉係 地域ボランティア担当
が⇒まちづくり支援係 まちづくり支援担当・地域
ボランティア推進担当に組織改正されました。



大内 陽子

まちづくり支援係長兼ボランティア活動センター長兼
まちづくり支援担当主任(西地区担当)



細淵 幸子

ボランティア担当
事務担当



有馬 千佳

まちづくり支援係
地域ボランティア推進担当主任
(東地区担当)



高木 茜

まちづくり支援係
まちづくり支援担当
(東地区担当)



川端 真紀

まちづくり支援係
地域ボランティア推進担当
(西地区担当)



原田 恵子

まちづくり支援係
まちづくり支援担当
(西地区担当)

28年度ボランティア保険
補助額について

ボランティア保険は、ボランティア活動中の事故によりボランティア本人がケガをした場合、ボランティア活動中に他人に対して損害を与え、損害賠償問題が生じた場合に補償する保険です。

平成28年度のボランティア保険補助額は昨年と同様、国分寺市内在住のボランティアを対象に**保険料の一部(100円)**を補助します。詳しくは**ボランティア活動センターこくぶんじ**まで直接お問い合わせください。

編集後記

長年悩まされてきた花粉症。ここ数年、症状が軽くて「もしかして体質改善？」とほくそ笑んでいたのですが、今年なぜか激しく悪化してしまいました。来年からは早めに対策しようと思いながら、このシーズンを乗り切ります！(T.A)

発行:社会福祉法人 国分寺市社会福祉協議会

ボランティア活動センターこくぶんじ

〒185-0022 国分寺市東元町 3-17-2

開設日:月曜～土曜日(日曜、祝日休館)、9:00～17:00

TEL:042-300-6363 / FAX:042-300-6365

◆HP <http://www.ko-shakyo.or.jp/vc/>

◆Twitter @kokubunji_vc

◆ブログ <http://blog.canpan.info/kokubunjivc/>

◆E-mail center@ko-shakyo.or.jp

ご意見お聞かせ
ください。



ボランティアクラブをお読みいただきありがとうございます。今後の企画・編集の参考のために、ご意見・ご感想などお寄せください。毎号抽選で5名の方に記念品を進呈いたします。当選者は発送をもってお知らせいたします。

<http://www.ko-shakyo.or.jp/enquete.htm>

↑↑こちらまでアクセスしてください。